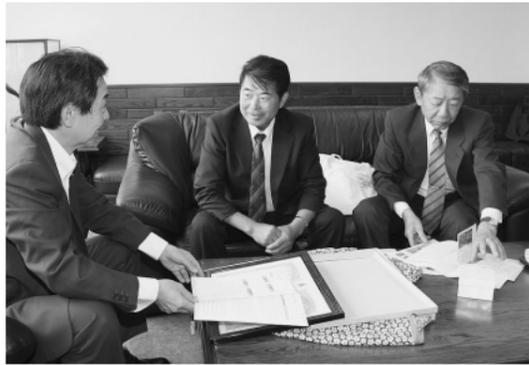


## 松森公園の植栽整備等を評価

### ●松森愛好同志会 緑化功労者受賞



▲市長に受賞の報告をする松森愛好同志会の上杉会長と高関事務局長

松森愛好同志会(上杉忠雄会長)が緑化功労者国土緑化推進機構理事長賞を受賞し、6月22日、上杉会長と高関英男事務局長が市役所を訪れ、津谷市長に受賞を報告しました。

上杉会長は「先代たちの森づくりを引き継いで、桜やつつじの植栽を進めてきたもので、長年の緑化活動が評価されてとても嬉しい。今後は、更に森づくりに専念し、地域の活力源に結びつけたい」と市長に報告しました。

津谷市長は「長年にわたり、公園の緑化に努められ大変感謝している。地域に対する愛情やこだわりをもっていないと継続できない。活動が次の世代に繋がっていくように続けてほしい」などと同会の活動を称えました。

## 緑化活動の様子を繊細に表現

### ●国土緑化育樹運動ポスター原画コンクール



▲津谷市長に受賞を報告する三上さん(中央右側)と武田さん

平成21年用国土緑化運動・育樹運動のポスター原画コンクールで入賞した鷹巣南小の三上美里さん(2年)と武田沙輝さん(4年)が6月22日、本間いま子教諭とともに市役所を訪れ、津谷市長に受賞の報告をしました。

三上さんは農林水産大臣賞、武田さんは国土緑化推進機構理事長賞を受賞。福井県で行われた第60回全国植樹祭で表彰されました。

三上さんは、天皇后両陛下に作品を見ていただき「毎日絵を描いていますか」との問いかけに、「いつも絵を描いています」と答えたそうです。

津谷市長は、「大変すばらしい。2人とも頑張りましたね。これからも、勉強も絵を描くことも頑張ってください」と、受賞を称えました。

## ふるさと踊りでにぎわう

### ●第25回ふるさと踊りと餅っこまつり



▲餅を買い求める人や見物客でにぎわった第25回ふるさと踊りと餅っこまつり

第25回ふるさと踊りと餅っこまつり(和田テエ子実行委員長が5月31日、鷹巣駅前・銀座通りを会場に開催され見物客などで終日多くの人出でにぎわいました。

この日は、目抜き通りが歩行者天国となり、餅の販売や、フリーマーケットなど各団体の出店のほか、綴子下町大太鼓保存会の獅子踊り、レクリエーションダンスサークルによる「縄文踊り」などが見物客を楽しませました。

ふるさと踊りには、約500人が参加。餅を振舞う大八車と綴子大太鼓の先導で始まり、着物姿もあてやかな踊り手や、子ども太鼓のかわいいパフォーマンスに、沿道を埋める観衆は、惜しめない拍手を送っていました。

## 杉の丸太を芸術作品に

### ●第2回東北チェーンソーアート競技大会



▲自分の思い描く作品づくりに挑戦する選手ら

第2回東北チェーンソーアート競技大会が6月20日、21日の2日間にわたり、県立北欧の杜公園で開催され、選手19人がチェーンソーを使った丸太の彫刻に挑みました。

開会式で、福森卓実行委員会会長は「チェーンソーの音をこの空の下に響かせ、今までの練習の成果を発揮して大会に臨んでください」とあいさつ。

作品のテーマは、「オーブンクラスが「秋田の動物たち」、「スキッチ」、「森つち」。

ビギナークラスは「フクロウ」で行なわれました。

選手たちは、さわやかな晴空のもと、様々なチェーンソーを使い分け、自分の思い描く作品づくりに挑戦していました。

## 木の香り漂う交流の拠点が完成

### ●幸屋交流センター竣工



▲秋田杉がふんだんに使われた「幸屋交流センター」

市が阿仁幸屋地内で建設を進めていた幸屋交流センターの竣工式が5月31日行われ、地区住民らが、秋田杉がふんだんに使われた交流センターの完成を喜び合いました。

施設は木造平屋建てで述べ床面積140.3㎡。44帖の集会室のほか、調理器具を備えた実習室、会議室などを備えます。

竣工式には、地元幸屋自治会の住民ら関係者約41人が出席。

はじめに、津谷市長が「地域の方々に大いに利用していただき、地域の交流の拠点となるよう活用してほしい」とあいさつ。式典後は、祝賀会が開かれ、秋田杉の香りに満ちた地域活動の拠点施設完成を喜び合いました。

## 豊かな自然の中で大きくなあれ

### ●ノロ川牧場入牧式



▲豊かな自然環境のなかで放牧飼育されるノロ川牧場

ノロ川牧場の入牧式が6月5日、森吉山麓高原の同牧場で行われ、放牧された牛は、新緑が広がる牧場に散らばって悠々と牧草を食べていました。

入牧式では、北秋田市森吉畜産改良組合の金勝彦組合長が「畜産を取り巻く状況は、飼育者の高齢化や飼料の高騰等でもとても厳しい。ノロ川での放牧は今年が最後となるが、下牧するまで事故のないようまるまると育ててもらいたい」とあいさつ。

放牧される牛は、畜産農家8軒の赤毛和牛や黒毛和牛50頭ほどで、10月上旬まで自然環境のなかで飼育されます。ノロ川牧場の放牧は、牧場再編のため今年が最後となります。